

令和6年度 第1回ユニバーサル都市・福岡推進協議会 要旨

- 開催日 : 令和6年5月7日(火) 17:00~18:30
場所 : 福岡市役所 9F 特別会議室 2(オンライン 併用)
出席者 : ○推進協議会委員
定村委員長、猪野委員、内野委員、清水委員、関根委員、鳥越委員、
松浦委員、張委員、吉住委員
(オンライン) 平井副委員長
(欠席:シグデル委員、荒巻委員)

1 開会

2 委員紹介

3 議題

- (1) 委員長、副委員長の選出について
・委員長は、委員の互選により定村委員を選出
・副委員長は、委員の中から平井委員を委員長が指名
- (2) 令和5年度の実績について
- (3) 令和6年度における「ユニバーサル都市・福岡」の推進について
- ※(2)、(3)は事務局より、内容を説明

委員からの意見 (昨年度の実績・今年度の取組について)

(1) 令和5年度、令和6年度の取組への意見

○これまでにユニバーサル大賞や企業と連携したパネル展示など、リアルな場での推進活動を行ってきたが、コロナでそういった活動が制約されてきた。コロナが5類に移行し、天神ビッグバンで新しいオフィスが次々に完成する中、機を捉えた取組みやアウトリーチ活動を期待している。

○高齢のクルーズ客が増えており、車いすや杖をつきながら来られるケースも増加している。トイレステッカーの配布など、そうした方々に合わせた取組を継続していくことも重要である。

○博多駅周辺でも新たな建物の整備が始まっているが、市が感染症対策やユニバーサルデザインの導入などを認定基準として盛り込んでいるため、徐々に対応が進んでいる。

- 舞鶴庁舎や博多区役所がオープンしたが、コロナのため、事前の見学会が開催できなかった。点字ブロックの位置や動線など、実際に現地に行くことで、よりよくするための意見を提出できる。後から対応するのは費用的にも負担が大きい。
- 実際に新しい建物を見学し、ユニバーサルデザインの視点から良い点・不十分な点を確認し、現状を共有することも今後の推進方策を考えていく中で重要。また、一定の基準を担保するために、施設整備マニュアルに新しい取組みを反映していくことも必要ではないか。
- ユマニチュードについて、認知症の人の支援のためのケア技法として、市が先進的に取り組んでいるが、例えば視線を合わせて話すことは認知症だけではなく、様々な介助、支援に活用できるものであり、一般の人が学ぶことも重要。
- 福岡市にはユニバーサルデザインの素晴らしい事例として、トータルデザインで取り組んだ七隈線がある。そのノウハウを生かすことで、予算も削減しつつ、良い仕組みができる。

(2) 今後のユニバーサル都市・福岡の推進について

- 指標について、若い人は順調に伸びており、伸びている部分をより伸ばす、というアプローチもある。また、成果指標については、そのあり方を見直していく必要があるのではないか。
- OSDGsのようにUDの価値を可視化し、企業にとってのメリットを知ってもらうといった、新しい福岡を作っていくための指針を協議会でまとめていく、ということも考えられるのでは。
- 欧米では近年アクセシビリティに関する法律が制定されるなど、グローバルの動きにも目を向けていく必要がある。
- 障がい者の雇用率も今後2.7%に引き上げられる中で、インクルーシブな雇用のあり方が検討されてもいい時期だと思う。
- 企業でユニバーサルデザインの理念を浸透させていくために、建設業の組合や設計士の集まりなどで話をすると、より推進につながっていくのではないかと思う。
- 障がいを持つ当事者や企業やメディア等の中から関心がある人などが参加し、よりオープンな形で意見交換できると、より活発な議論が期待できる。

4 閉会